

令和4年度 中部地方ダム等管理フォローアップ委員会 議事要旨

1. 日時：令和4年12月9日（金）
2. 場所：AP名古屋 会議室 B+C+D
3. 出席者：藤田委員長、石田委員、沖野委員、奥野委員、
粕谷委員、駒田委員、西條委員、辻本委員、
中村委員、長谷川委員、松尾委員
4. 議 事：
 - (1) ダム等の定期報告（案）
 - 1) 寒狭川堰
 - 2) 横山ダム
 - 3) 徳山ダム
 - (2) 令和3年年次報告書(案)及び令和4年度の主な出来事
 - (3) 審議概要等の確認
 - (4) 規約の改正

寒狭川堰定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた寒狭川堰の定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、寒狭川堰は流況改善について現状の管理範囲において適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況が概ね安定していることから、寒狭川堰については適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

i) 流況改善

- ・ 今後は重点管理項目とした流況改善日数の評価だけでなく、豊川の生態系の視点からハビタットの变化の把握につながる様、水深や流速なども含めて整理するとよい。

ii) 水 質

- ・ 今後は重点管理項目とした流況改善放流と水質との関連性について、放流量の変動も含めて解析しておくるとよい。

iii) 生 物

- ・ 生物の評価として、特定外来生物については、「少ないうちの駆除につながられる様に今後も動向に注意していく必要がある。」と追記すること。

○定期報告書については、了承する。委員からの意見等は、提案（発言）の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させることで了承する。

横山ダム 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた横山ダムの定期報告書（案）について、審議を行った。

その結果、横山ダムは治水・利水について現状の管理範囲において適切な効果を発揮していること、環境への影響等については、今後も各種環境調査と、その分析と評価を行い、環境の変化に関して確認・整理をすること。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

- i) 防災操作
 - ・特になし
- ii) 利水（発電）
 - ・特になし
- iii) 堆 砂
 - ・堆砂肩の前進を注視するとともに濁水放流への影響についても注視すること。
- iv) 水 質
 - ・H24.11 などのクロロフィル a の値が高い際の植物プランクトンの細胞数を再度確認すること
 - ・坂内川の濁度の年推移について貯砂ダムへの堆砂による影響も含めて確認すること。
- v) 生 物
 - ・コシアキトンボについて幼虫時期での生息域も含めて継続的に確認していくこと。
 - ・運用変更による生態系の変化について、短期的な変化と長期的な変化やダム湖岸部と貯水池末端部などを区別して評価・分析すること。
 - ・貯水池運用による水位変化が各生態系に及ぼす影響について注視すること。
 - ・陸域ハビタットについて、河川水辺の国勢調査での統一的な分類ではなく、横山ダムの特性に対応するよう整理すること。
 - ・開放水面の面積について維持の目標を定めること。
 - ・アジメドジョウがダム湖内に見られていることから、確認された箇所環境を確認すること。

vi) 水源地域動態

- ・特になし

- 定期報告書については、了承する。委員からの意見等は、提案（発言）の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。

徳山ダム 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた徳山ダムの定期報告書（案）について、審議を行った。

その結果、徳山ダムは治水・利水（流水の正常な機能の維持、発電）について現状の管理範囲において適切な効果を発揮していること、環境への影響等については、各種環境指標に顕著な変動は認められていないが、今後も各種環境調査と、その分析と評価を行い、環境の変化に関して必要に応じて検討又は対応することを確認した。なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

i) 防災操作

- ・なし

ii) 利水補給

- ・なし

iii) 堆 砂

- ・なし

iv) 水 質

- ・アオコ発生については原因を究明して、必要に応じて対応を検討すること。早期に対応していくことが重要である。
- ・濁水時の放流方法については、高濁度放流による濁水早期排出を行うか、表層放流による濁質沈降促進を行うか等、データを蓄積して濁水長期化対策として適切な方法を検討すること。

v) 生 物

- ・甚しやく湿性地をはじめとした湿性地環境を維持する対策の実施について検討すること。
- ・カワネズミなど地域の良好な環境を指標する動物が把握できる調査の実施等を検討すること。

vi) 水源地域動態

- ・なし

- 定期報告書については、了承する。委員からの意見等は、提案（発言）の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。